



BELLADONNA 哀しみのベラドンナ

ジュール・ミシュレ「魔女」より 藤田浩一 監訳

悪魔に身体を捧げ、異様な快楽の中で愛に泣くジャンヌ！
新鮮な題材を、世界に類をみない大胆な手法で描くアニメ・スペクタクル！

アニメロマネスコ
カラー作品

虫プロダクション＝日本ヘラルド映画製作



製作/渡辺忠美・演出/山本映一・脚本/山本映一・堀田善之・美術・原画/深井国・アニメート/杉井ギサブロー・音楽/佐藤允彦・主題歌サントラ盤/唄・福まゆみ(キャニオン・レコード・シネディスク)★声の出演/長山藍子・仲代達矢・伊藤孝夫・高橋昌也・しめぎ・しがこ・米倉喜加年★ナレーター/中山千夏

哀しみのベラドンナ

＜カラー作品＞虫プロダクション＝日本ヘラルド映画製作



スタッフ

製作……………渡辺忠美
演出……………山本映一
脚本……………福田善之
……………山本映一
美術原画……………深井 国
アニメート……………杉井ギサブロー
音楽……………佐藤允彦
■声の出演
ジャンヌ……………長山藍子
悪魔……………仲代達矢
ジャン……………伊藤孝夫
領主……………高橋昌也
奥方……………しめぎ・しがこ
司祭……………米倉齊加年
ナレーター……………中山千夏

へジュール・ミシュレの名著「魔女」を原作にした話題のアニメロマネスク誕生

欧州中世史は、ローマ教会と貴族領主の歴史であり、農民たちはその完全な支配下で飢えと無知の暗黒を生きたなければならない。『魔女』は、その暗黒が生んだ特異な女たちだ。ローマ教会によって迫害され、生きながら焼かれた『魔女』たちは、はたして邪悪と狂気の使徒だったのか。いや、それはむしろ、暗黒からの人間の解放を、おのれの精神の反逆と、肉体の快楽の奪回をもって行なうとした最初の女たちではなかったか。

豊富な実証とユニークな文体でそう主張したフランスの歴史家ジュール・ミシュレの名著「魔女」が、福田善之と山本映一の大胆な脚色化によって、今「アニメロマネスク」の世界に華麗にやみがえった。

へアニメーション映像の常識を打ち破る暫新手法

「千夜一夜物語」、「クレオパトラ」に続く虫プロダクションⅡ日本ヘラルド映画提携の第三弾だが、「前二作とは全く異質のアニメ・スペクタクルを狙う」(演出・山本映一)という意図のもとに、編み出されたアニメーション映像の飛躍性と非日常性をフルに生かす絵画的な線と構図、シュールな色彩処理、常識を破る静止画面の多用など、かつてない手法上の大胆な冒険が、秀抜な映像世界をつくり出している。

「物語は……」
愛する夫ジャンに捧げるはずだったジャンヌの初夜は、神の名のもとに、領主をはじめとする家来たちの汚辱に踏みにじられた。こぼれんばかりの幸福に酔いしれていた二人を絶望の暗闇がすっぽりとつつんだ。ジャンヌは必死に深い闇をくぐりぬけようとした。その時、絶望の淵に沈むジャンヌの心の扉を叩くものがあつた。幻想の妖精——悪魔だった。ジャンヌは拒みながらも半ば自暴自棄に邪宗の快楽に身を沈めていった。即刻、ジャンヌは『魔女』の烙印を押され、愛する夫にも見棄てられ村を追われた。吹雪く荒野を彷徨し、いばらが体を突き刺す原野を這い、ジャンヌは真赤なベラドンナが咲き乱れる花園にたどり着いた。絶望の淵から自力で這い上がり、もう何ものにも束縛されずに荒野に立つジャンヌの姿は神々しかった。その頃、黒死病がヨーロッパ全土を覆い村人たちは神の重圧と共に困苦の極致にあつた。ジャンヌはベラドンナを精製して作った薬草で人々を暗黒から救出した。一方、堅固を誇った城中にも黒死病はしのび寄り、領主はジャンヌの腕を借りようとした。だがジャンヌは領主の頼みをきっぱり拒否した。領主は怒り狂いジャンヌを火あぶりの刑に処した。一個の肉体は滅びたが、ジャンヌの神への反逆の魂は、真赤なベラドンナの花のように人々の心にますます燃えさかっていた。

へアニメ界の精鋭スタッフと豪華キャスト
演出の山本映一は、「ある街角の物語」、「クレオパトラ」などを手塚治虫と共に手がけた虫プロはえ抜きの気鋭であり、この「哀しみのベラドンナ」にアニメーション映像作家としての真価を賭けた。キャラクター・デザインには深井国、アニメートには杉井ギサブロー、実写には森山大道があたっている。

声の出演は、長山藍子(ジャンヌ)、仲代達矢(悪魔)、伊藤孝雄(ジャン)、それに高橋昌也、しめぎ・しがこ、新村礼子、そしてナレーターに中山千夏といった顔ぶれだ。

へジャズ界の鬼才佐藤允彦と、新星橋まゆみの話題の音楽

シュールな映像を、ジャズ・ロックの躍動するリズムで盛り上げるのはジャズ界の鬼才佐藤允彦。また、その容姿と声に透명한感じを漂わせる話題の新星橋まゆみが、お馴染みの小林亜星Ⅱ阿久悠のコンビからなる主題歌を、新人ばなれした歌唱テクニクで唄う。

へベラドンナとは……

「ベラドンナ」とは、「美しい女」という意味だが、当時知られた毒草の名前でもあり、農民たちにとって唯一の医師であつた魔女たちが、その毒性を逆利用して病人の治療にあてたという。

へ「哀しみのベラドンナ」の制作意図を山本映一監督は次のように語る

今、科学技術の文明が、頂点を迎えた形で現代がある。私にとってこの時代は、まさに終末の意味をしかもたない。しかし、私は希望を捨ててはいない。なぜなら、私はロボットではなく、まだ、まぎれもない人間で、狂気のかげからくらは残っているからである。そう考えた時、私はミシュレの「魔女」を映画にしようと思ひ立った。このような精神世界をモチーフとして描出しようとするとき、アニメーションはもってこいの技法である。私は幻想の産物である「サタン」にキャラクターとしての形を与えると共に、彼を含めた精神世界の活動にアニメートを使用し、日常生活描写はスチール画にするという、動きの図式化をおこなった。「動かない」ということも「動き」のひとつであつて、その意味で、動きを性格的に対比させたのである。これらを、白を基調にした水彩画の手法と日本の伝統的な絵巻物ふうのカラージュ構成で、展開してみた。